

協働・交流・連携による新たな地域づくり推進事業

概要

人口減少等の進行により、集落機能の維持・保全が困難になりつつある地域の地域づくりに大きな影響が生じている。そこで地域づくり計画の策定支援や外部人材との協働交流連携を図り、多様な主体による地域づくりの推進、本町の生活文化等の継承・発展などの仕組みづくりを連動して展開することとしたものである。

事業の内容

事業の内容

- ・北部地区における住民ワークショップ(6回開催)
- ・早稲田大学、青山学院大学等の学生のべ40名が年3回合宿し、地域の資源や課題把握→地域資源を活用した地域づくり提案をコンテスト形式で発表
「うまるぞおぐに杯地域課題解決コンテスト」の開催
- ・地域住民と学生が、6次産業化中央サポートセンタープランナーとともに、特産品開発、販売、販路開拓のためのマーケティングや既存商品の販売体験を実施
- ・本町の生活文化や生活技術の継承、外部人材との協働連携のための組織化に向けた講演会の実施や必要な物品の購入、拠点となる施設等の検討

総事業費

12.2百万円

ポイント

地域と学生・協力隊などの外部人材をつなぐ役割の重要性

事業の成果

- ・小国町北部地区において、住民ワークショップを開催、先進地視察等を実施したことにより、地域の住民自らが地域をどうしていくか、検討していく契機となった。
- ・早稲田大学等の学生が地域の人、食、自然などの魅力に埋まり、早稲田大学ボランティアセンター公認サークル「いぐべおぐに」が設立され、継続的・計画的に町を訪れる仕組みが構築された。
- ・地域住民が、生活文化や技術の継承、外部人材との連携のための組織の必要性を認識するとともに、その拠点となる施設の機能について取りまとめた。

山形県小国町



【計画策定のための住民ワークショップ】



【特産品販売・マーケティング(有楽町)】



【学生による地域づくり提案発表】